

旅と文化

発行所 東京都千代田区
神田神保町2-30 全国
財団法人修学旅行研究協会
電話(301)0531・2426
編集・発行 永井 照

さくらフィルム



小面六写真工業

近畿地区高等学校

修旅委結成近し

修旅海上輸送懇談会の成果

八月二十日、大阪市大手前会館において、第二回近畿地区高等学校修学旅行研究協議会(以下、修旅研)が、全修旅研協議会の提唱により、開催された。当日は海上輸送をテーマとして、関西汽船より船客部長三宅正夫氏、団体輸送の立花係長をゲストに招き、当社の映画「瀬戸内海」を鑑賞したあと、全修旅研協議会会長岡本氏の司会、京都市立洛陽高校長奥谷久彦氏を議長として、会が進められた。

三宅部長の講話として、修旅の海上輸送には次のような陸路があることが判明した。

① 修旅専用船は三億円かかるが、等級なしのものとなるので、シブシブ・オフに一般客に流用でき、むづかしい研究テーマである。

② 復路だけ船というケースが多く、往路は空船を運航させなければならぬ場合があり、学校間連絡がとれる計画輸送が必要である。

③ 計画輸送が実施されるならば、現在運行している客船を改装して、修旅第一主義の専用船にしてよい。

④ 計画輸送が実施されるならば、近畿地区高等学校修学旅行研究協議会内には、近畿地区の九州向け修旅において、各客船のバラストの状態で実施するのではなく、連合的な方法を加えた計画輸送を先ず具体化されなければならないことが明らかにされた。

⑤ この修旅は修旅全般のことと研究し、その向上実現のため行動をとるが、当面、九州向け修旅の計画輸送を第一目標として、修旅研の組織化を急ぐこととされた。

⑥ この修旅は修旅全般のことと研究し、その向上実現のため行動をとるが、当面、九州向け修旅の計画輸送を第一目標として、修旅研の組織化を急ぐこととされた。

鳥取県における

修学旅行の近況

伊佐田甚蔵

全国修学旅行研究協議会
鳥取県支部長



近頃の旅行は大人といわず子供といわず、誰もが日常茶飯時に往々行われる様になっている。

① 目的の地が遠くへ、或は特殊な土地へ目指されていく。

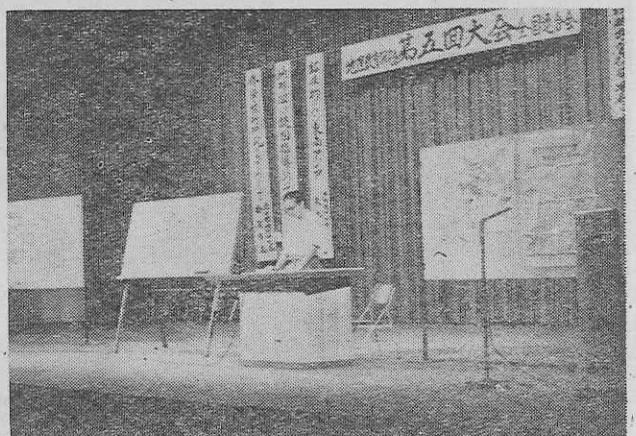
鳥取県の例をあげると、高等学校では主として、関東(東京、箱根、日光方面)であるが九州方面へは関西方面で、大阪、神戸、京都、奈良、中にも名古屋、伊勢方面がその大部分である。然るに一年と関東方面へ足を延ばす方向に変わりつつある。小学校は岡山方面、四国方面から関西方面に変わりつつある。

② 単独から連合へ
単独行動は便利だが、臨時列車編成で出発する方が利便性が高いので、次第にその方向へ進みつつある。県下で中学校は殆ど全部その方向にある。小学校も次第にその方向に進み、小規模のものは目下その研究を進んでいるものが多いから明年あたり殆どその方向に進むものと思われる。

③ 修学旅行運営上の問題として
イ 専用列車、臨時列車の場合は放送設備を利用して学習を進めることである。業者を利用して設備を整えれば一層都合がよい。

ロ カイロツクをどうするか
目的の地が大部分一定すれば、その解説や、写真図表を共同製作に移して、準備を安くすることが出来る。向、白紙を加えて、切り抜き等は、写真図表を各自附加せしめるよう用意することが必要になる。

ハ 添乗員を配すること
教師は学習の指導、管理に専念し一切の交渉、世話等は指導に専任の添乗員を配することが適当である。小学校、中学校はもとより過去に於てその経験がなく、全部を教師がやっていた。現場で色々の困難を感じていたのは高等学校であつたが、添乗員を配することにより、



地理教育研究会全国連合会第五回大会における谷信勝氏(都立城南高校)の修旅研究発表

地理的に修旅を研究

地理教育研究会 第五回大会で発表

地理教育研究会全国連合会(会長 松本茂)の第五回大会が、去る八月一日より四日間、東京都杉並公会堂において全国より五百人の参加者を得て盛大に開催された。特に第一日の修学旅行研究発表と第三日の修学旅行研究発表とが、修旅の改善と向上に寄与するものが多かった。八月二日午後より修学旅行研究発表は次の諸氏によって次々と行われた。

(一) 修学旅行の別荘別研究
東京都立城南高校教諭 谷 信勝 各氏の発表は十五分に制限された。

(二) 東京に来る修旅の生徒数
東京都立江戸川高校教諭 渡辺 謙

(三) 東京に来る修旅の団体数
東京都立台東区立東区立高校教諭 井上 一弥

(四) 東京における修学旅行の宿泊状況について
文京区立茗荷台中学校教諭 小原 憲雄

(五) 東京都内の見学コースについて
東京都立白鷺高校教諭 川合 元彦

(六) 私立育英高校教諭 藤井 長治
県立和歌山南高校教諭 内藤 俊彦
県立和歌山南高校教諭 内藤 俊彦
市立高田南高校教諭 兵衛 石川(大阪) 芦田(京都)
奈良 土井 実吉田(奈良) 宮所(和歌山)

こまどり 来春に完成

国鉄本社常務会で正式決定

国鉄本社常務会では、愛知、岐阜、三重各県修旅一四三〇万円を夫々契約する旅と地元各銀行との間で五月十二日正式契約を結んだ。したがって九月八日正式契約完了。続いて六月二日設計が完了し、十月より着工に十日国鉄本社常務会で申請書を受け、来春三月頃に新造車こまどり、35年度九四〇万円、36年度九四〇万円、37年度九四〇万円が出来る見込みとなった。

沖繩から修学旅行

首里高校生徒を囲む座談会

沖繩那覇市首里高校二〇四名(引率教諭石垣正吉氏)は、夏季休暇を利用して日本内地の修学旅行に来ているが、去る八月二十一日、千名の生徒中百四名が参加した。座談会では、修学旅行の意義、費用、安全、などについて、生徒と教諭の間で、大抵三〇〇ドル(約二万円)位は持つて来た。沖繩の事情を内地の人があまりにも知らな過ぎるのに驚いた。座談会は約一時間位で終了したが、生徒の有志が歌つてくれた沖繩民謡は郷土色が出ていて非常に印象的であつた。

東京に誕生した 近代設備の修旅会館

お茶ノ水……日本学生会館
代々木……東京青年文化会館

日本学生会館
お茶の水の高台にそびえる鉄筋コンクリート五階建ての日本学生会館は、東京青年文化会館と共に修学旅行の生徒千名以上を一度に宿泊できる施設である。この会館の特長は第一に東京の中心にあつて交通と環境のよいことである。第二に食堂、売店、ロビー、暖房等の施設が、生徒の生活の指導が容易であること、第三にサービス面で、清潔な浴場と便所、マイクや映画施設を持つた食堂(五〇〇人収容)ラジオによる郷里への放送等があげられる。

東京青年文化会館
次に都内随一の環境を誇る東京青年文化会館は、国電代々木駅と千駄ヶ谷駅の間にある。この会館は本年四月に開館したばかりの修学旅行宿泊施設として、一番新しい近代設備の鉄筋六階建ての会館である。

この会館の特長は、環境と交通のよいことである。客室(洋室)は二〇〇式で約二〇〇名収容の設備があり、和室と共に千名以上の宿泊ができる。調理場も清潔で、カレーや量味の豊かな食事を三階の大食堂で四〇〇人が一階に出来るのは非常に便利である。



〇 東京タワーの鉄骨の組立て工事の大規模なことに感心した。沖繩に欠けているのは、公園や娯楽施設(後楽園のようなもの)がないので沖繩でも作つたらいいと思ふ。

〇 座談会は約一時間位で終了したが、生徒の有志が歌つてくれた沖繩民謡は郷土色が出ていて非常に印象的であつた。



(右)日本学生会館
(左)東京青年文化会館

